

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

多功城の名残を巡る(多功天神町)

上三川町には鎌倉時代に築かれた有名な城跡が2つあります。一つは上三川城で、これは現在城址公園になっていることから知っている方も多いと思います。もう一つは多功城で、上三川城とともに宇都宮氏の南の防衛線として活躍しました。今月は石橋駅東口からスタートし、多功城がある多功と天神町を歩いて見ましょう。

石橋駅の東にある天満宮は、奈良時代の瓦や礎石が出土し、当時の寺院の跡と考えられていましたが、区画整理事業に伴い周辺を発掘調査したところ、寺院ではなく役所の跡であることがわかりました。実は、先週紹介した上神主・茂原官衙遺跡も同じ時期の役所跡と考えられていて、わずか3km程しか離れていない両遺跡が、どのような関係であったか注目されています。

天満宮を出て南に進み、多功十字路を東に進むと、多功城址に入ります。現在は宅地や山林に姿を変え、城の面影を残すものは、わずかに残る土塁や堀と、多功城があったことを示す石碑のみですが、戦国時代には、関東平定を目指した小田原城主北条氏の度重なる攻撃にも落城しませんでした。周辺には、西念寺・見性寺・宝光院といった多功城にゆかりのある寺院も残っています。見性寺は多功城主多功家の菩提寺で、

歴代の城主の墓は町指定文化財になっています。1597年に多功城廃城の後、江戸時代になると多功氏は、伊予今治城主松平家に仕官しますが、その後も墓参を通じて、地元に残る家臣の子孫たちと交流をしていたことが、古文書に残されています。多功十字路の南にある宝光院には、秘仏である鎌倉時代の鉄仏や板碑など、多功城が繁栄した時代の文化財が残されています。まだまだ暑い季節ですが、身近にある史跡を歩いて見に行きませんか？きつと上三川の新たな発見があるはずですよ。



た報川柳

岡島秀宝 選

いいことが続いて止まらない笑いと

石田 前原 秀雄

風鈴に耳を預けて昼寝中

上蒲生 鶴見 敏子

食べ過ぎて宿まで歩くことにする

石田 森山 ヤイ

狂い出す方向足を棒にする

大町 小口 達子

露草が涼さくれる台所

三村 上野久美子

下り坂子に従って泣き寝入り

上町 上野 広江

雨ならば延期の雨が降りやまず

石田 高橋 世津

